

日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。6月29日（水）に高学年分科会で研究授業がありましたので、ご報告いたします。

6年生 外国語科 「Welcome to Japan.」

《目指す児童像》

知識を相互に関連付け、既習事項を生かし、相手意識をもって発表できる子。

目指す児童像に迫るための手立て

《【習得・活用・探究】過程の工夫》

①必要な表現や言葉を実際に獲得する工夫

ゲームやチャッツをする時間を設定し、食べ物、自然、行事、名所の言い方を声に出して楽しく覚えられるようにする。

②既習事項の表現を確認できるようにする工夫

既習事項の表現を確認できるように、既習事項を活用できるウォームアップを行う。また、表現集を作成し、いつでも確認できるようにする。

③グループでの協働的な学習の工夫

グループで一人一人どんなことを発表するか話し合い、また、お互いに発表を聞き合うことや、グループ同士で発表し合うこと、クラス同士で発表し合うことを通して、相手意識をもてるようにする。さらには、発表の振り返りを行うことで、発表の仕方の考えが深まり、自信をもって発表できるようにする。

ICTを活用した指導の工夫	指導の目的	使用するアプリ等
①いつでも確認できる表現集の作成	・日本を紹介する文を書くとき、既習事項を生かして文章が書けるようにするため。	・ドキュメント
②Google Formを活用した振り返り	・自分自身の学習を俯瞰的に見直せるようにするため。また、友達の振り返りを参考にし、思考の言語化ができるようにするため。	・Google Form
③紹介文の作成、発表の練習	・インターネットを使って紹介することを決め、作成した文を自分で読む練習ができるようにするため。	・グーグル
④発表の工夫	・インターネットを使って、紹介したい内容についての写真や動画を収集し、映像を見せながら発表できるようにするため。	・スライド

成果と課題

成果

- ・児童が自信をもって、日本を紹介する文章を発表していた。
- ・クラスを交換しての発表をしたことで相手意識をもつことができた。
- ・すぐに自分たちの発表の評価を見て振り返ることができた。
- ・振り返りを行った後、学級内で即時共有することで、次時への課題を考えることができた。
- ・「クリアボイス」、「アイコンタクト」、「オープンマインド」の3つの観点を示すことで、他者に配慮した発表の意識を高められていた。

課題

- ・習っていない表現での発表があり、聞き手に内容が伝わらなかった。
- ・聞く側の視線が、発表者ではなくモニターに集まっていた。
- ・他者意識を高めるために、質問などのやりとりがあるとよかった。
- ・児童が評価する規準をもっと明確にするとよかった。
- ・ICTの音声機能を活用し、発音やイントネーションを向上できるとよかった。



第2回研究授業は、9月21日（水）中学年分科会で行う予定です。